

旅行社が募集するツアーに参加する場合、最初に組み込まれた行程以外にそれぞれの訪問地で別料金のオブショナルツアーというのがある。16カ国に寄稿するピースボートにもそれぞれの寄港地で少ないところで4～5コース、多いところでは10数コースのオブショナルツアー(OP)が用意されている。OPはその目的により、寄港地の町や近くの世界遺産を訪れる‘観光’、ホームステイや現地の若者とのサッカーの親善試合などの‘交流’、農作業体験や家庭訪問先でその国の料理を作って食べるなどの‘見聞’、象牙目当ての密漁で親を亡くした子象の孤児院を訪ね、さまざまな角度から密漁の実態をさぐるなどの‘検証’がある。

OPとは別にオーバーランドツアー(OT)といって舟から一時離脱して、次の寄港地から再乗船というツアーもある。たとえば、ベトナム・ダナンで下船し、3泊4日で空路アンコールワット遺跡を訪ね、シンガポールから又乗船するコース。インド文化遺産の旅7日間、タンザニアワイルドサファリ10日間、エジプトアブシンベル宮殿とルクソール7日間、ガルパゴスクルーズ10日間など10コースくらいある。

寄港地での停泊日数は半日～2泊3日である。大半が朝入港し、その日の夜出港だが、寄航時間7時間という慌しいところもある。寄航前日又は前々日に上陸説明会があり、寄港地の気候、港から町までの交通手段、物価の目安、注意事項などの話がある。その中で繰り返し言われることは、‘帰船リミット’(通常、出航時刻の1時間前)に遅れないようにということだ。特に、OPに参加せずに自由行動をするものは、これを守らないと置いてきぼりにされることになる。今までにそんなケースがあったかどうか知らないが…。

下船、乗船する際に、ボーディングカードを機械に通す。パソコンの画面上に出た顔写真で本人と確認できればOKである。入国・出国の手続きは通常乗客全員の分をピースボート側でまとめてやってくれるのでパスポート自分の手元には置いていない。ボーディングカード(IDカード)をその代わりに持って歩く。

今まで5カ国に寄港し、いくつかのOPに参加した

が、どれもやや不満が残った。1ヶ月が過ぎ、寄港地での自由行動と一緒にできる仲間もできたので、観光を目的としたOPをいくつかキャンセルすることにした。

ケニアのモンバサを出港した船は、又赤道を越えて南半球から北半球に戻りアフリカ大陸の東側のツノのようなソマリア半島を回って紅海に入った。紅海の塩分の濃度は4%、大体普通の海の塩分濃度は3.4%くらいだそうだ。



明日朝、エリトリアのマッサワに入港する。午後1時には出港でわずか6時間余の滞在だがOPではなく自由行動だ。ピースボートのリピーターで、2年前にマッサワにきたことのある人と数人でまちの市場に塩を買いに行こうと思っている。マッサワ近くの海岸沿いにある塩田で作られた自然の塩が市場や露店で売られていて、その塩はミネラルが豊富でとても味わいがあって健康にもよいとのことだ。

マッサワの気温は日中40°Cをこえるという。しっかり日焼け対策をして水を持って出かけよう。

(2005年3月5日)

